

活動概要 ～ 鶴岡サイエンスパークを拠点に ～

最先端のバイオサイエンスを核とした「鶴岡サイエンスパーク」をエリア拠点とし、環境問題や食料不足、病気の早期発見など、世界が抱える大きな課題の解決へ貢献していきます。

山形県・鶴岡市・慶應義塾の3者連携を基盤に20年以上にわたって蓄積されてきた研究・教育・ビジネスの実績を土台に、バイオサイエンスの先端研究機関、教育機関、慶大先端研スタートアップを含む企業群が集い、バイオ技術を駆使した持続可能な新素材の開発生産、ヘルスケア・機能性食品、医療等の研究開発を進め、新事業の創出を目指しています。

活動の特徴と強み

①大学を核とし、複数のスタートアップが誕生

慶大先端研は世界最先端のバイオテクノロジーを駆使し、メタボロームなどの生物データを網羅的に解析して得られるビックデータをITを用いて理解する「統合システムバイオロジー」のパイオニアとして、データ駆動型の生命科学研究に取り組んでいます。この世界最先端の技術を活用し、慶大の教員と学生らが多くのスタートアップを創業してきたことで、最先端のスタートアップ企業が集う、大学を核とした地域活性化の成功地として、国内外から注目されています。



②イノベーションを生むマインド醸成と地方自治体の長期支援による人材育成

挑戦を重視するカルチャーがイノベーションを生み出すエンジンとなっており、山形県と鶴岡市が20年以上にわたり慶大先端研に拠出している大型補助金が、その安定的な運営財源となっています。長期的な研究・教育活動と人材育成が可能になったことで、鶴岡で学び育った人材が再び鶴岡に集まり、最先端の研究・事業に挑戦するサイクルが構築されています。

また、地元の高校生を研究助手や特別研究生として受け入れるなど、若手の人材育成と地域貢献にも取り組んでいます。



今後の方向性・課題等

2001年に慶大先端研が誕生してから20年以上が経つ現在、鶴岡サイエンスパーク全体で約580人の雇用が創出され、市内に年間で約41億円の経済波及効果を生む規模にまで成長しました。今後は、さらにバイオコミュニティ全体のPRや投資の呼び込み、地域全体の活性化を図るため、戦略的なブランディングや情報発信を通じて、さらなる社会受容性の向上を目指します。また、研究機関と県内外企業、国内外のバイオコミュニティとのさらなる連携強化を図ることで、研究・社会実装・人材育成が循環し発展するサイクルを大きく成長させていきます。

